

## 「2017平和を考える集い」開催される

戦中・戦後のくらし展、被爆体験を聞く会、高校生平和大使写真展  
高校生平和大使国連訪問報告会、高校生シンポジウム

12月8～10日、盛岡市アイーナ4階県民プラザにおいて開催しました。戦中・戦後のくらし展は1990年に第1回の「母と子で考える戦争展」として開催され今回で38回目となります。また、高校生平和大使報告会は今年で6回目となり、2013年から戦中・戦後のくらし展と統合し「平和を考える集い」として開催しています。



展示部門の「戦中・戦後のくらし展」には3日間で合計583人の来場者がありました。開催にあたって盛岡三支部からの共催を得、高退連からの協力もありました。今回は、戦争加害の資料と海外の教科書に表現された原爆に関する記載内容を展示しました。また、高校生平和大使20周年を記念して、これまでの活動の写真展も開催されました。

「被爆体験を聞く会」は、長崎の高校生平和大使派遣委員会共同代表の平野伸人さんから「被爆者の願い～高校生平和大使20年の歩み～」と題して、自身の母親の被爆体験、被爆二世の友人の死、被爆二世教職員の会の設立、在韓被爆者との出会いと救援活動、高校生平和大使を始めるきっかけ、意義、東日本大震災と岩手の高校生平和大使の果たす意義について語られ、約60人が被爆二世として活動してきた様々な思いに聞き入りました。



「高校生平和大使国連訪問報告会」は、スイスの国連欧州本部の軍縮局を訪問し、核兵器廃絶の思いを伝えるスピーチと1年間で集められた214,300筆の高校生1万人署名を手渡したこと、軍縮会議でスピーチできなかったこと、日本政府代表部のレセプションが開催されたことなどを中心に報告されました。

「高校生シンポジウム」は、岩手日報社の川端記者をコーディネーターに、高校生平和大使のOB・OG、2人の第20代高校生平和大使、高校生1万人署名活動に携わる高校生など6人をパネリストに開催されました。「非核について考える」をテーマに、地域で活動して感じることや世界をめぐる情勢、相互理解等について議論しました。議論の中で、平和について「同世代の意識の違いが大きい。」「今の日本は平和ぼけしている。」「震災のこと、核兵器のことを身近に考えていくべき。」という意見がありました。「意識が低いのは学ぶ機会が少ないから。」という指摘もありました。「平和の維持に核兵器が寄与しているのではないか。北朝鮮によって、核兵器には抑止力があることが証明された形になった。」という現状分析の意見とともに、「唯一の被爆国として、核兵器が必要ない世界を作るために、何が必要か考えていくべき。」「被爆者の証言を生で聴くことができる最後の世代。次につなげていく責任がある。」と、力強く訴える意見もありました。

